日本なし栽培の中間台利用(新潟系)によるわい化効果

(園試果樹部)

1. 背景とねらい

本県の日本なしの栽培は県南部花泉町で「幸水」を中心に産地化されているが栽培面積は 横ばい傾向である。そこで省力で栽培管理が容易なわい化栽培の可能性についてわい性台木 を検討した結果知見が得られたので参考に供する。

2. 技術内容

- 1)幸水、豊水は新潟系わい性台木(西洋ナシ系)の中間台挿入によりヤマナシ台に比較し約75%程度のわい化効果が得られる。
- 2)使用方法はヤマナシ台木と穂品種への中間台利用で約20cm挿入する。
- 3)新潟系台木中間台方式により幸水は糖度が向上する傾向にある(約1度高い)。

3. 指導上の留意事項

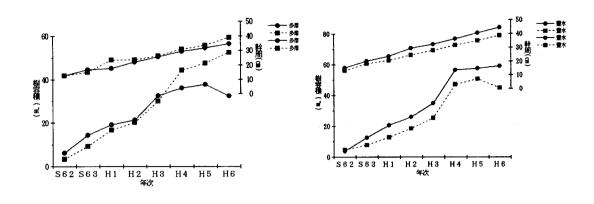
- 1)品種によってはわい化効果が異なり効果が認められない品種もある(多摩等)
- 2)植栽に当たってはわい化効果が認められるので植栽本数を多め(50~60本/10a)にする。
- 3)中間台は必ず地上部に出し自根の発生がないよう十分注意し、深植えをしない。
- 4)中間台として利用する新潟系台木はやや台勝ち傾向がみられる。

4. 試験成績概要

第1表 果実品質(糖度)

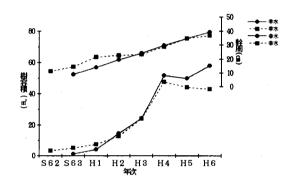
単位		-				0/
HH 477	•	н	r	1	v	υ _/
Ŧ- W-		ப			^	∕∪

品和	年次	6 2	6 3	1	2	3	4	5	6	平均
多摩	ヤマナシ台木	12.6	11.9	13. 2	14. 3	14. 2	12.5	13.6	14. 4	13. 3
	新潟系台木	12.4	12.7	12. 9	13.7	14. 2	12. 2	12.8	14. 2	13. 1
豊水	ヤマナシ台木	11.8	11.1	11. 2	12. 3	11.9	12.4	12.4	14.4	12. 2
	新潟系台木	12.0	11.8	11. 2	13.6	12.0	12.2	11.9	14.3	12.4
幸水	ヤマナシ台木	-	-	11.7	11.9	12.6	9. 9	11.7	12. 4	11.7
	新潟系台木	12.8	12. 4	13. 2	13. 7	13. 3	10.8	12. 2	13. 9	12. 8



第1図 '多摩'の樹容積と幹周の変化

第2図'豊水'の樹容積と幹周の変化



第3図'幸水'の樹容積と幹周の変化

第2表 台勝ち、台負け状況(平成5年) 単位:cm

品和	重、台木	穂品種	中間台	台木
多摩	ヤマナシ台木	34. 3	_	47. 3
	新潟系台木	38.8	52.9	52.3
豊水	ヤマナシ台木	44.3	-	
	新潟系台木	38.5	49.4	47.7
幸水	ヤマナシ台木	39.3	-	52.3
	新潟系台木	36.8	48.8	39.9